

# 論壇

激しかった日米貿易摩擦

長いこと経済学者をやっている  
と面白い光景に出会うことがある。  
その中でも、どうしても忘れ  
ることができない光景がある。も  
う20年前後前の話だが、ある電機  
メーカーの役員の方から電話があ  
り、英語で講演してほしいと依頼  
された。

指定された都内のホテルに出向  
くと、会場の雰囲気は妙な感じだ  
った。部屋の片側に米国の人た  
ちが20人ぐらいた。米国の半導  
体メーカーの幹部たちだ。部屋の  
反対側には日本の企業の幹部ク  
ラスが並んでいた。米国の半導体

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

を購入する立場の日本企業の幹部  
だ。

これは何の会合かと聞くと、日  
米の半導体貿易摩擦に関連した会  
合であるという。日米協議で日本  
側が米国の半導体をもっと購入す  
るように約束したが、それがきち  
っと実現しているか、毎年両国の

## 保護主義的なトランプ政権

企業が集まって検証しているとい  
う。マスコミも政府関係者も入ら  
ないで企業関係者だけで集まると  
いう。ただ、その年は米国製の半  
導体が想定以上に売れたので、米  
国側に特に不満もない。そこで外  
部の講師を招いて経済の話を開こ  
う、ということになった。そこで  
私が呼ばれたわけだ。

考えたらすごい話だ。米国側は  
もっと製品を購入するように政府  
を通じて圧力をかけてきた。これ  
が日米半導体摩擦だ。それを受け  
て日本企業は懸命に米国の半導体  
の購入額を増やそうとしていた。

その購入額を増やそうとしていた。  
それを企業が集まって協議してい  
たのだ。

当時の貿易摩擦はそれほど激し  
いものであった。半導体だけでな  
く、自動車、カーフィルム、鉄  
鋼、流通など、あらゆる分野で激  
しい摩擦が起きていた。圧力をか  
けてくる米国にどう対応するの  
かが、日本の通商政策の最も重要  
な課題であった。

貿易摩擦はもう過去の問題だと考  
えていた。ところがそうでもなか  
った。トランプ政権は矢継ぎ早に  
保護主義的な政策を打ち出して  
くる。アルミや鉄鋼で関税を引き上  
げると発表したと思ったら、次に  
は知的財産権をめぐる中国製品に  
大規模な貿易制限をかけると言っ  
ている。中国側も黙っていないの  
で、報復関税を検討している。そ  
れに対して米国はさらに関税引き  
上げで対応するかもしれない。関  
税戦争になる危険さえある。

### 中国と関税戦争の恐れも

米国の株価下落は国内政治の  
影響もあるだろうが、米国の貿易  
政策の影響も大きい。  
今後の動きはどのように展開す  
るのだろうか。今の段階でそれを  
予想するのは難しい。ただ、トラ  
ンプ政権はさらに保護主義的な政  
策をエスカレートさせるような勢  
いだ。また、その政策を通じて、  
日本にも新たな圧力をかけてくる  
とも言われている。  
空気が水は、それが欠乏しては  
じめてその重要性がわかる。グロ  
ーバル経済で貿易や投資が自由  
に行える環境にも似たような面が  
ある。保護主義的な動きが出てき  
て、はじめてグローバル経済の重  
要性が身にしみる。今後の米国  
や中国の動きに注目する必要があ  
る。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。